

「解放への歩み」

部落改善運動から融和運動へ

「部落差別の解消のためには、部落の改善に加えて、社会の差別意識を問題にすべきだ」

明治政府が推し進めた殖産興業・富国強兵政策によって近代資本主義が発展する中で、部落の貧困、生活環境の劣悪さ、不学無識等の実態が鮮明になってきました。この部落の実態を部落差別の原因と考え、それを改善することで差別の解消をめざす部落改善運動が、1890年代後半から部落の内外で起こって来ました。

しかし、部落差別の責任を部落の人々に押し付け、部落の人々自身に改善の努力を強い部落改善運動は十分な効果を上げることはできませんでした。そのような中で、部落差別の解消のためには、部落の改善に加えて、社会の差別意識を問題にすべきだという「融和運動」が生まれてきたのです。それは、人道主義の立場を強調し、人々の親善融和を図ることによって差別を解消しようとするものでした。

1910年(明治43)の大逆事件の後、政府も被差別部落外の人々にも差別の反省を促し、被差別部落出身者への同情融和を求める融和政策をとり始めましたが、国の予算に地方改善費(5万円)が計上されたのは1920年(大正9)でした。初めて被差別部落に対する国家的措置がとられたのは、1871年(明治4)「解放令」発布から実に半世紀も後のことだったのです。

大分県の融和運動

大分県では、1924年(大正13)大分県水平社の創立と同年12月に融和団体「大分県親和会」が結成されました。大分県親和会は、郡市町村に支部、青年部、婦人部を組織して、融和運動を推進しました。具体的には、講演会や映写会による啓発活動、部落内の物心両面にわたる生活改善運動として、経済厚生と融和教育を中心とする融和事業を展開したのです。

1930年(昭和5)5月には、東国東郡親和会が結成されました。その後、1935年(昭和10)の融和事業完成10周年計画に基づいて、部落の共同作業場・公会堂の建設、協同組合化の促進、転業資金・奨学資金の交付などのほか、武蔵町・高田町・三保村には教員住宅を設け、訓導が常駐して地域の青少年の教育に携わりました。

水平社運動

「人間はいたわるものではなく、尊敬すべきものだ」

大正時代に入ると、人々の政治や社会改革への関心が高まってきた。そして、各地で労働運動や農民運動がおこると、部落の人たちは、「このまま自然には差別はなくならない。自ら立ち上がって真の部落解放をめざす」という考えを持つようになりました。奈良県柏原の部落に住む西光万吉や阪本清一郎らは、自主的な解放運動を全国的な組織にするために、「水平社」を結成しました。

水平社は、「人間はいたわるものではなく、尊敬すべきものだ」という考えを基調にして、部落

差別をなくすあらゆる運動を展開しました。この運動が「水平社運動」とよばれるものです。「部落民としての誇り」と「人間としての尊厳」とに貫かれた水平社精神は被差別部落の人々の心を強くつかみ、差別からの解放を願う運動として全国に広がっていきました。

全国水平社宣言

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

1922年(大正11)3月3日、京都市岡崎公会堂で、部落出身者を中心に約700人(約2000人、3000人とする説もある)が全国から集まり、「全国水平社創立大会」が開催されました。この大会で読み上げられた「全国水平社宣言」は、日本ではじめての人権宣言といわれています。

文 責：社会教育課 田中
参考文献：もつと知りたい部落の歴史(解放出版社)

●第9回国東市隣保館まつり

「いっその川柳」課題《まつり》応募作品

浴衣着て

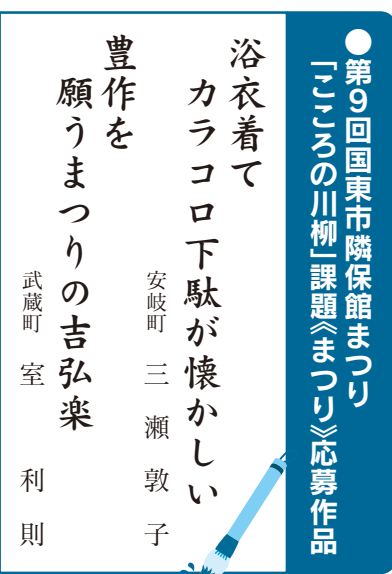
カラコロ下駄が懐かしい

豊作を

願うまつりの吉弘楽

武蔵町 室

利 則



市長室から「ごん」にちは

No. 3

市長日記

アメリカ独立記念レセプション

国東市長 三河 明史

6月23日、木曜日の18時、私は福岡市のホテル「グランドハイアット福岡」のレセプション会場にいました。在福岡米国領事館主催の「アメリカ合衆国独立240年記念レセプション」に招待を受けたのです。

何故、アメリカとは特に縁のない国東市の市長が招待されたのか？実は、去る4月16日(土)に行われた国東市市制施行10周年記念イベント「国東市縦断40キロウォーク」に在福岡米国領事館のトップであるユリー・フェッジキフ首席領事が参加してくれたのです。当初、ウォーキングへの申し込みがあり、「市長が歩くなら一緒に歩きましょう」と話されたそう

で、私も当日を楽しみにしていたのです。首席領事は、外交官になる前は、大分市の国際交流員を2年ほど務めたこともあり、大分県についても詳しく、さらに国東市にも来たことがあるそう、流暢な日本語を操る、長身の穏やかな好青年でした。

し、首席領事も握手して、一緒に歩けないことをお詫びしたのです。ただそれだけの出会いだったのです。ですから記念レセプションに招待されるなど、考えてもみませんでした。私は、このようなレセプションは苦手な方で、緊張しながら会場に入っていくと、入り口で、正装の首席領事がこやかに招待客を出迎えてくれています。しかも私のこともちゃんと覚えていてくれたのです。大変な感激でした。

レセプションは、私が緊張していたのとは反対に大変リラックスしたものでした。首席領事のスピーチも、この3年間九州各地を回ったことをその土地土地の方言を交えて、ユーモラスに話すものですから会場は爆笑に包まれました。

首席領事は、近く転勤になると言うことでした。私は、退出の際、持参した国東市の土産を贈り、「元気で！」と手を握りました。転勤先は、パキスタンとのことですから、アメリカの外交官は危険も多いことでしょう。好青年の無事を祈らずにはおれませんでした。グッドラック、ユリー・フェッジキフ首席領事。

図書館だより

どくしょがいちばん！

開館時間を延長しています。

7月21日から8月30日までの期間に限り、火曜日から金曜日の開館時間が9時30分から18時30分までとなっています。なお土曜日・日曜日は通常の開館時間です。9月からは通常の開館時間(10時から18時)に戻りますのでご注意ください。

西日本読書感想画コンクールの指定図書と青少年読書感想文全国コンクールの課題図書を各館に置いています。冊数に限りがありますので譲り合ってください。

問合先	
国見図書館	☎0978-82-1585
くにさき図書館	☎0978-72-3500
武蔵図書館	☎0978-69-0946
安岐図書館	☎0978-67-3551



▲読書感想コンクールの指定図書と課題図書

司書のオススメ

『7つの名前を持つ少女』

イ ヒョンソ/著 大和書房/出版

近くて遠い国、朝鮮民主主義人民共和国。メディアではさまざまな報道がなされていますが、その国の生活については実際にはよくわかりません。普通の生活をしてた17歳の少女の北朝鮮での生活、ある夜祖国と中国を分ける国境の河を渡ってしまったことから始まる思いがけない亡命生活など、脱北者である著者の体験を通して見えてくる北朝鮮とはどんな国なのか。国とは、人権とは、幸せとは何かを考えさせられる一冊です。

図書館に寄つちよくれ

Q. 本の背表紙には、本の題名の下に分類番号が記されています。913番台は日本文学です。では、スポーツは何番台でしょう？ 答えは図書館で！